

過去5年間の教職員表彰受賞者及び各取組内容一覧

年度	氏名 組織名	校種	校名	職名	主な内容
	山川 淳	小	日吉	学校事務職員	<p>学校事務職員として、学校徴収金の扱いについて、各学年の会計担当に説明会の時間を設け、分かりやすい説明書を配布して説明を行っている。また、今年度より、徴収金の振替回数を削減し、学年会計担当者の負担軽減とミス防止を図っている。その運営や説明のための準備については、早い時期から管理職とも相談を重ね、保護者にも納得していただけるよう手順を踏んで進めるなど、先を見通した企画・立案ができています。</p> <p>学年会計に係わる必要書類もチェックリストを作成し、確実に処理できるようにしている。また予算では、配当予算の現状を全教職員に理解してもらえるよう数字をグラフ化し、経費が多かかっているものは何なのか、教職員が日頃、消費している費目は何かについてより意識できるような資料を配布するなど、費用の削減を求め、理解を得ている。削減できた予算の使い道として、必要物品の購入に充てることで、全教職員からの理解も得られ、適切に利活用することができている。</p> <p>学校事務職員として、児童との関係づくりも含め、積極的に学校運営に関わり、いわば「チーム学校」としての成果が出ていることが評価される。</p>
	橋永 孝子	小	上丸子	総括教諭	<p>支援教育コーディネーターとして、不安を抱える保護者に対して傾聴の姿勢を大切にしながら相談に乗り、保護者から厚い信頼を集めている。コロナ禍の状況で不登校傾向の児童が増加した中、取り出し学習室「スマイル教室」での組織的な受入体制の充実を図った。</p> <p>また、多様な理由により教室離脱する児童が急増した昨年度は、それらの児童を「スマイル教室」で受け入れる体制を整えるとともに、児童一人ひとりの状況に応じた学習計画（時間割）を立てるなど個々の児童に寄り添ってきた。今年度は、離脱していた多くの児童が、教室で友達と一緒に学習を行っているのは大きな成果である。</p> <p>「スマイル教室」で多くの時間を過ごす児童の保護者も様々な不安を抱えている。その解消のために「スマイル授業参観」、「スマイル懇談会」を中心となって計画をした。取り出し教育の中で、授業参観、懇談会を行い、保護者への理解を深めた実践は貴重であるとともに、本市の支援教育の充実につながる実践である。</p>
	川崎市立大島小学校校内授業研究会	小	大島	—	<p>当該研究会は学校教育目標「あしたも行きたくなる学校」を合言葉にし、生活科・総合的な学習の時間についての校内授業研究も、同時期に始まり、今年度で12年目を迎える。</p> <p>児童の思いや願いに寄り添うことを第一に、学年の児童の実態から始まる課題創造、課題解決型の教育活動のスタイルを積み重ねてきた。身に付けた資質・能力を、他教科や領域、そして日常生活でも、生かせるようにすることが大きな課題であると考え、校内授業研究では、地域とのつながりを深めるような単元構想やカリキュラムマネジメントにチャレンジすることで、地域に生きる大島小児童の資質能力を高めている。</p> <p>大島小学校は、令和6年度に100周年を迎える。活動の発信の場の一つである「おおし祭」なども、保護者や地域の方は、とても楽しみにしている。飾ることのない子どもたちの姿を通し、教育活動の集大成をこれからも発信することが期待される。</p> <p>児童の主体的な学びを学校全体で最優先に考えて、その活動が継続できていることは高く評価できる。</p>
R5	川崎市立柿生小学校	小	柿生	—	<p>令和2年度から「自己肯定感を高め自らの手で未来を切り拓く子の育成」と教育理念を掲げ、教職員がチームとなり、この教育理念の具現化に向けて学校教育活動を推進している。教育理念の具現化に向けた学校教育目標を「知・徳・体」の三本の柱とし、それに応じ、校務分掌を「授業力向上チーム」、「自立活動支援チーム」、「児童支援チーム」の3委員会に分けている。それぞれが取組を工夫しながら子どもたちの充実した学校教育活動へとつなげている。</p> <p>「授業力向上チーム」は、研修を行い、授業を公開している。総括教諭を中心に、若手の授業を見に行き、振り返りを行うことで、授業力向上に努めている。「自立活動支援チーム」は、児童の主体的な活動を推進している。運動会などの学校行事をはじめ、創立150周年記念式典に向けたスローガンやマスコットづくりなども、高学年を中心に積極的に支援・サポートをしている。また様々な活動でギガ端末を活用した全校投票をするなど、児童の主権者意識の向上にもつながっている。</p> <p>「児童支援チーム」は、教育理念に向け、子どもたちが互いに認め合い、多様性を尊重することや人権意識の啓発に努めている。</p> <p>このように、各チームが児童を考えての役割を果たしており、全教職員が教育理念を念頭に置いた活動の実践は評価できる。</p>
	エネルギー・環境子どもワークショップ実行委員会市内小学校担当教職員一同	小	平間	—	<p>エネルギー・環境子どもワークショップは、市内小中高生が集まり、エネルギー・環境・SDGsについての学校での取組をワークショップ形式で発表し交流し合う、市内最大級のSDGsイベントである。発表内容は、地域や企業・団体等と連携した実践に関するものが多く、地域の教育力の向上に寄与している。</p> <p>意見交流等を児童生徒が行い、最終的に記録誌を作成し、全市の学校や行政機関・企業等にも配布している。また、保護者以外にも地域・企業・大学・行政機関等の幅広い分野から、おおよそ500名の参観者があり、参加児童生徒は、他校の児童生徒や大勢の大人と交流することで、SDGs推進への更なる意欲の向上につながっている。</p> <p>ワークショップは市内小学校教員から実行委員を募り、企画運営の一切を行っている。実行委員会はSDGsや脱炭素の市内への普及に努め、コロナ禍においても中断することなく動画コンテスト形式で開催した。他校や地域・企業等の取組を知ることで、参加校教職員や実行委員会の教職員の意識啓発に大きく貢献している。</p>
	川崎市立東住吉小学校特別支援学級担任一同	小	東住吉	—	<p>昨年度から「特別支援学級の教育」に焦点をあて、特別支援学級担任が中心になってこの研究を推進してきた。5学級のクラス編制をして、自立活動の目標や計画は一人ひとり個別に立て、教室環境を整えるとともに、サポートノートや自立活動計画書も利用しやすい形式に変更して作成している。</p> <p>研究の成果として、児童の実態がより把握でき、児童自身は授業に取り組む姿勢が身に付き、落ち着いて学校生活が送れるようになってきている。また、それが児童の自信にもつながり仲間への声掛けや手伝いもすることが増えている。</p> <p>研究の成果を受け、川崎全体の特別支援学級にもこの取組を広げたいという思いから、特別支援学級の授業、環境については、いつでも、だれでも参観できるような体制を整えており、外部からの参観者も増えている。</p> <p>このような研究は川崎市でも初めてのことであり、特別支援学級担任自身が、研究に前向きに取り組み、成果を上げていることの功績は大きい。特別支援学級に在籍する児童の可能性、知的な好奇心、学力をのばしていくために、川崎市における今後の特別支援学級の在り方について大きな指針となる。</p>

過去5年間の教職員表彰受賞者及び各取組内容一覧

年度	氏名 組織名	校種	校名	職名	主 な 内 容
R 4	清野 貴史	小	麻生	教諭	<p>ユニバーサルデザインを具現化した学級経営の工夫や学習指導要領をよく理解し、児童と一緒に授業を作り学習意欲を高める授業の工夫など、児童一人ひとりを大切にされた優れた教育実践を行っている。同僚の教職員、保護者とも協力的に物事を進めることができ、児童、教職員、保護者の意欲や意識向上に影響を与えている。</p> <p>平成30年度から副読本「かわさき」の編集委員として、郷土資料編集、作成に尽力し、令和3年度には副読本「かわさき」の大改訂に伴い総合教育センターに設置された郷土資料編集研究会議に研究委員として関わり、改定の趣旨に則った授業を実践し、他校の校内研修の講師を務めるなど、本市の社会科教育の充実・発展にも努めている。</p> <p>また、授業の板書を写真に収めながら、日々の授業の振り返りも欠かさずに行い、授業の改善や教材研究についても地道な努力を続けている。非常に物腰が柔らかく、穏やかな点が校長だけでなく、ベテラン教職員や若手教職員からも評価され、また児童や保護者の信頼獲得にもつながっている。</p>
	露木 律文	高	高津（全）	総括教諭	<p>かわさきGIGAスクール構想が開始される前である令和元年度から、生徒のICT活用能力向上やPC等を使った資格試験の受験等に活用していくこと目的として、タブレット端末の生徒一人一台環境を実現し、情報科の授業だけでなく、総合的な探究の時間等でも生徒の興味が湧く授業に取り組み、生徒のICT活用能力や発表力の向上について成果を挙げている。</p> <p>タブレット端末の導入にあたっては、校内の合意形成や保護者の理解促進などに尽力した。</p> <p>校内では、教職員の校務効率化を進めるための資料を作成し、率先して研修を行うとともに、情報科以外の教科でも生徒の情報活用能力が育成できるように進んでICTの活用が不得意な教員の相談にも乗り、学校全体の情報活用能力の向上に取り組んでいる。</p> <p>かわさきGIGAスクール構想の推進校の中では、GIGAスクール構想推進教師（GSL）として川崎のICT活用能力の推進にも尽力しており、市外でも神奈川県高等学校教科研究会情報部会の実践事例報告会で発表し成果を挙げている。</p>
R 3	伊東 有希	小	東小倉	教諭	<p>平成29年度版「学習指導要領の改善に係る検討に必要な専門的作業協力者」で得た知識を生かし、校内の教科指導及びカリキュラム研究の要として活躍している。</p> <p>本校に赴任した平成30年度には、川崎市教育委員会の研究推進校として国語の発表を、令和1・2年度には、研究推進校として道徳教育の発表を行った際の中心であった。なお、令和2年度には文書発表にとどまったものの、道徳教育全国大会の発表者としても予定されていた（新型コロナウイルス感染症の影響で書面開催となった）。</p> <p>校内では研究主任として綿密な計画立案をし、教職員に対し、「推進委員会便り」を通じた発信や、研究の内容をカリキュラム研究として浸透させるための意識改革に努めた。また、自らの授業実践においては、保護者（図書ボランティア）と児童による読みの交流や、近隣の保育園・幼稚園と連携した授業を行うなど、保護者・地域を積極的に取り込んでいる。</p> <p>経験はまだ12年だが、教科指導における知識は計り知れないものがあり、常に各地に研修の場を求め勉強している。若手教員の良き手本となれる人格も兼ね備えている。</p>
	中嶋 浩二	高	幸	総括教諭	<p>昨年度より学習部が新しい分掌としてスタート。各種校内委員会の業務を引き継ぐとともに、大学新制度入試に向けたeポートフォリオや生徒の基礎学力の向上に向けた新たな取組などを主任として推進している。また、普通科の「幸探究(総合的な探究の時間)」やビジネス教養科の「課題研究」での探究活動における基礎力を身に付けさせるため、学校設定教科「リサーチ基礎」を設置し、令和3・4年度の研究推進校として、研究を進めている。学校設定教科は、教科目標を立てなければならないなど、0からの立ち上げになるのでたいへんな努力を要するが、実現させることができた。また、外部団体「モチラボ」との窓口として生徒の探究活動を深めるべく、講演、指導、講評の機会を設けるとともに、教員が指導スキルを身に付けられるような工夫を取り入れている。</p> <p>地域と共に歩む学校づくりを推進するため、「幸探究」では、幸区役所と連携して地域の課題解決に向けて高校生が目線で解決案を発信するという取組を実践し、成果を上げた。地域広報誌等に掲載されたり、生徒の提案をまとめた冊子を福田市長、幸区長に贈呈するなど、地域と連携し、取組の目的を現実させている。</p>
	信岡 真弓	特	田島	総括教諭	<p>知的教育部門と肢体教育部門の2つの教育課程を有する田島支援学校であるが、肢体教育部門は経験の少ない教育部門である。その上、近年においては、医療的ケアを必要とする児童生徒の入学が連続しその人数も増え、必要な医療的ケアの種類も増えている。そうした児童生徒の学校生活を充実したものにするためには、日々の指導内容の改善も必要であるが、医療的ケアを安全に実施するマニュアルが欠かせない。マニュアルを作成するためには、児童生徒の状態はもとより、医療行為を実施する看護師や教員、安全を確認する養護教諭の理解、保護者の意向も組み入れながら検討する必要がある。田島支援学校は事例が少なく、作成は困難なものであったが、当該教諭の県立校での経験、子どもの生活を豊かにしようとする愛情、保護者に寄り添う気持ちがあふれ、主治医、指導医、教育委員会事務局の助言を受けながら、粘り強く、一人ひとり、あるいは様々な医療行為のマニュアルを作成してきた。人工呼吸器の使用が必要となる児童の保護者の意向にも真摯に取り組み進めている。</p>

過去5年間の教職員表彰受賞者及び各取組内容一覧

年度	氏名 組織名	校種	校名	職名	主 な 内 容
R 2	黒川 邦子	中	渡田	総括教諭	<p>学校経営の視点を常に持ちながら、常に生徒に寄り添い、生徒一人一人の成長のために積極的に関わる姿は、学校職員全体の指針となっており、経験の浅い教員に対しては、アドバイスを与えるだけでなく、良き相談相手となることで、若手教員の育成にも尽力している。</p> <p>また、学校教育目標の具現化に向けて、学習指導上の課題解決においてはリーダーシップを発揮し、校内研究の推進、学習会の企画・運営、学習手引きの作成など、学習指導及び学習評価の方向性を学校全体に浸透させることで、「わかる授業」、「基礎基本の定着」だけでなく、全校生徒の学力向上のため、常に生徒の実態を的確に把握して最大限の効果が出るよう工夫されている。</p> <p>地域から講師を招いて体験講座を行う「ワークショップ渡田」では、職員間及び地域との連携を綿密に図り、企画の立ち上げから運営まで中心となって取り組むなど、地域に根差した学校づくりにも多大な貢献をしている。</p>
R 1	小嶋 智加	小	中野島	教諭	<p>思春期の難しい課題を抱えた児童、登校渋りや不登校などの困難を抱える児童に対して、児童の話をよく聞き児童理解を深め、児童の不安を取り除く等の心のケアに努めている。</p> <p>また、保護者との連携を様々な工夫をしながら密に図り、問題の改善に向けて工夫した取組を実践している。</p> <p>さらに、児童支援コーディネーターや教務主任、用務員等、様々な人と児童との関わりを大切に、教職員みんなで児童を見守る体制を築き上げるとともに、きめ細かい支援や配慮、明るい声掛けなどによって、どの児童もクラスに温かく迎えられる環境作りに力を尽くしている。</p> <p>児童指導の校内における研修では、指導・支援の手立てを工夫し、指導による児童の変容、教育的効果を分析する取組を示しており、他の教員に大変参考になるものである。</p> <p>実践力、リーダーシップ等、本教員の取組は、波及効果がある。</p>
	住吉 幸代	中	有馬	総括教諭	<p>生徒一人一人の気持ちに寄り添った指導法は、校内生徒指導体制の推進・改善の礎となり、学校運営に貢献している。</p> <p>昨年度から生徒指導担当として、学校全体の生徒指導を司り、同時に宮前地区学校警察連絡協議会の事務局としてもその職責を果たす中、川崎市中学校生徒指導部会の常任委員としても活躍し、その取組姿勢は、経験の浅い教員の目標となり、ミドルリーダーの手本となっている。</p> <p>また、地域や関係諸機関の催しや諸会議に積極的に参加することにより、自治会役員、民生委員、保護司、保護者等との関係を構築し、学校と地域をつなぐパイプの役割を果たしている。</p>